

再 評 価 調 査 書

整理番号	3
担当部課名	土木部道路建設課 県道担当

1 事業概要

(1)事業名	地方道路整備事業	(2)名称	主要地方道 常陸那珂港山方線
(3)事業主体	茨城県	(4)箇所名	那珂市額田南郷～門部
(5)採択年度	平成28年度	(6)完成予定年度	令和10年度
(7)事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 常磐自動車道及び県北内陸部を結ぶ物流ルートへのアクセス性の向上により、所要時間の短縮、定時性の確保等、県北地域の交通体系の構築を図る。 栃木、福島に繋がる路線（国道118号など）の機能強化により、県域を越えた経済、物流の持続的な活性化を図る。 		
(8)事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 事業延長 L=2,300m 計画幅員 W=25.0m（暫定2車線整備） 用地買収、改良工事、舗装工事、谷津川橋梁、JR水郡線横断BOX 		

2 再評価の理由

(1)再評価の理由	再評価（完成年度の変更）	(2)当初完成予定	令和5年度
(3)未着工・事業が長期要している理由	水田部の区間において、農地整備事業と連携し道路用地を生み出す計画としており、この農地整備事業との協議・調整に不測の期間を要したため事業が長期化している。		
(4)前回指摘事項に対する対応状況（再々評価の場合）	委員会の意見	対応状況	

3 事業計画の変更

(1)完成年度の変更	令和5年度（2023年度） → 令和10年度（2028年度） 5年延長
	【理由】 水田部の区間において、農地整備事業と連携し道路用地を生み出す計画としており、この農地整備事業との協議・調整に不測の期間を要したため事業が長期化している。
(2)事業内容の変更	【理由】
(3)事業費の変更	【理由】

4 進捗状況と今後の見通し

(1)事業進捗状況	全体	前年度	前年度まで	進捗率	
事業量(m)	2,300	0	0	0%	
事業費	工事費	4,230	50	90	2.1%
	用地買収補償費	457	0	0	0%
	計(百万円)	4,687	50	90	1.9%
(2)関連事業の進捗状況	経営体育成基盤整備事業 新木崎地区 進捗率3.6%				
(3)今後の見通し	工事		用地等		
	圃場整備工事と連携し、着手可能な区間から優先的に工事を進め、早期供用を目指す。		令和4年度に用地測量を実施し、令和5年度早期の用地取得を目指す。		

5 評価内容

(1)事業の必要性	常陸那珂港山方線の当区間においては、水郡線を横断し、大きく南へ迂回するルートとなっており、県北（大子・常陸大宮）方面へ向かう交通は、国道118号や国道349号が主な利用ルートとなっている。この2車線に交通が集中し慢性的な渋滞が発生しており、当路線の整備により交通を分散し円滑な交通が図られる。					
	社会情勢等の変化に関する指標1	計画時の状況	現時点での状況	社会情勢等の変化に関する指標2	計画時の状況	現時点での状況
	常陸那珂港山方線 24時間交通量 (常陸太田市松栄町1083)	4,889台 /24時間 (H22センサス)	5,206台 /24時間 (H27センサス)	—	—	—
(2)事業の有効性	本事業の実施により、下表のとおり通過時間が約6分短縮されるとともに現道の交通量が約49%減少することが予想されることから、本事業は利便性の向上に有効である。					
	効果予測に関する指標1	事業なし	事業あり	効果予測に関する指標2	事業なし	事業あり
	那珂市額田南郷～門部 までの通過時間	8分	2分			
	効果算定要因に関する指標1	事業なし	事業あり	効果算定要因に関する指標2	事業なし	事業あり
	計画道路将来交通量(R12)	—	11,800台/24時間	現道将来交通量(R12)	8,600台/24時間	4,400台/24時間
(3)事業の効率性	ア) 主な効果 (B)					
	<ul style="list-style-type: none"> ① 当該路線の整備により那珂市額田南郷から門部までの2.3km区間及びその周辺道路において、走行時間の短縮により7,700百万円の縮減効果が見込める。 ② ①と同区間において走行経費の短縮により680百万円の縮減効果、及び交通事故の減少効果180百万円が見込まれる。（合計 8,600百万円） ③ 常磐自動車道と県北内陸部を結ぶ物流ルートへのアクセス性向上が期待できるとともに地域への活性化に大きく寄与する。 					
	イ) 主な費用 (C)					
	① 事業費	3,760百万円				
	② 維持管理費	140百万円				
	計	3,900百万円				
	主な効果のうち貨幣化が可能なア、イについて事業の効率性を分析した結果は以下のとおりである。 参考となる指標 B/C= 2.2					
(4)地元の意向	茨城県北部幹線道路・水戸外環状道路建設促進協議会（会長：那珂市長、副会長：常陸大宮市長、監事：東海村長、常陸太田市長、大子町長、ひたちなか市長）から早期整備の要望を受けている。					
(5)コスト縮減や代替案立案の可能性						

6 対応方針

狭隘な現道のバイパスとして円滑な交通流動を確保するとともに、地域間の連携強化による産業の活性化及び企業進出の促進などの効果が期待できることから事業を継続したい。

7 再評価委員会の意見

継続することが妥当である。

8 委員会の意見を踏まえた対応

委員会の指摘を踏まえ、部分供用による効果の早期発現を含め、現計画に沿って早期完成を目指し事業を進める。

